

# 私立 聖徳大学短期大学部

## 学生生活を就職活動へ発展させるための総合的支援

取組期間	2009(平成21)年度～2010(平成22)年度
区分	学生支援推進プログラム
所在地	〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550番地
設置者	学校法人 東京聖徳学園

### 取組内容とその成果

#### プログラムの目的及び内容

本プログラムの目的は、「学生生活の全てが就職に繋がる」をモットーに、短期大学部保育科の学生が2年間の充実した学生生活を送り、その総合的な学習成果＝学士力を就職活動へ発展させることを支援するものである。本プログラムによって、学生は自信を持って納得のいく就職活動を行うことを可能にするが、併せて、大学が保育現場に質の高い保育者を輩出することを目指している。

上記の目的を達成するための内容として、第1に学生による「キャリアデザインノート」への記入がある。第2に、「キャリア形成4領域プログラム」による19回の講座である。どちらも“Career Design Note”という1冊のノートを使用する。

#### 到達目標

第1に、学生が学生生活の成果をキャリアデザインノートに記入することにより、「成長する自分」を確認し、明確なキャリアデザインを描いて就職活動に臨むことである。第2に、キャリア形成4領域プログラムにより、学生は就職に必要なコミュニケーション能力や常識力を身に付け、「仕事と人生」について真摯に考え、十分な準備の基に自信を持って就職活動を行うことである。

上記の到達目標の達成度についての指標として、第1に「最終学年在籍の学生の就職率」を90%以上に上昇させる。第2に、保育科学生が就職活動を開始する10月から翌年の3月までの月ごとの就職内定状況を過去のデータと比較し、早期の就職内定を上昇させることで、自信を持って就職活動をしていることの指標とする。

#### プログラムの実施内容

第1に、「キャリアデザインノート」の作成とノートに基づく学生支援である。キャリアデザインノート

トには授業、実習、学校行事、クラブ活動、ボランティア等の成果を記入するページがある。学生は折に触れてノートに記入し、その内容を教員に報告したり、教員と個別に話し合うことで、自らの成長を確認し、自らのキャリアデザインを描く。

第2に、「キャリア形成4領域プログラム」の講座内容の作成と、プログラムの実施である。講座は1回90分で、第1領域[キャリアデザイン(3回)]、第2領域[コミュニケーションスキルの形成、常識の習得(8回)]、第3領域[保育者による「仕事の人生」の講義(3回)]、第4領域[就職ガイダンス(5回)]から構成されている。講座は1年次前期から2年次まで継続し、1年次の講座は主に前期の「基礎ゼミⅠ」、後期の「基礎ゼミⅡ」の内容に組み入れられる。プログラムを通じて、学生は就職活動の準備ができる。

学長のリーダーシップの下に、保育科専任教員とキャリア支援室職員が連携し、さらに学生課、教務課の協力を得てプログラムを実施する。

#### プログラムの成果

##### 1. 当該プログラムの周知方法等

本プログラムが保育科の就職支援として定着し、他学部、学科のモデルになることを目指して実施した。従って以下のように学生、教員、職員等、学内への周知徹底に努めた。

##### (1) 学生への周知

「キャリア形成4領域プログラム(以後、「4領域プログラム」と記す)」の最初の時間に、担当教員が学生に“Career Design Note”を配布し、「4領域プログラム」の目的・内容等を詳細に説明した。また、「キャリアデザインノート」の活用方法についても具体的に説明して学生への周知を図った。

##### (2) 教員、職員への周知

保育科教員に対しては、科別会(毎月、保育科内

で行う会議)で“Career Design Note”を配布し、プログラムの目的・内容等を詳細に説明した。さらに、毎月の科別会で「4領域プログラム」の実施方法についての教員用マニュアルを配布し、保育科全教員に指導方法の周知を図った。保育科以外の教員に対しては、教員会(原則として毎月、全教員が集まって開催)で本プログラムの説明をした。教員会には各課の管理職員が出席している。従って管理職員を通じて他の職員にも周知した。

本プログラムの実施状況については就職委員会(年間5回程度開催)で報告をした。本学では、前期・後期それぞれ約1ヶ月間にわたり公開授業を実施しており、本プログラムも同様に全教員に公開された。

## 2. 当該プログラムの成果

### ①自己評価は、どのような観点で行ったか。

本プログラムの到達目標は、第1に学生が「成長する自分」を確認し、明確なキャリアデザインを描いて就職活動に臨むことであり、第2に十分な準備の基に自信を持って就職活動を行うことである。従って就職内定状況など数値的な評価だけでなく、学生の心情・意欲・態度といった内面的な部分の評価も必要である。また、本プログラムでは、プログラムを担当する保育科教員の意味も評価する必要がある。そこで以下のような4つの観点に基づいて自己評価を行った。

(1) 学生のプログラムへの評価・・・学生は「キャリアデザインノート」及び「4領域プログラム」を必要と感じているか

「キャリアデザインノート」及び「4領域プログラム」の主なテーマの有用性についてのアンケートを学生に行った。アンケートの結果は別紙資料に掲載。

(2) 教員のプログラムへの評価・・・教員はプログラムを実践してどのような感想を持ち、評価しているか

16名の保育科専任教員がプログラムを担当した。従って担当教員に、「キャリアデザインノート」及び「4領域プログラム」に関するアンケート(自由記述)を行った。アンケートの結果は別紙資料に掲載。

(3) 「キャリアデザインノート」の記入内容・・・学生は「キャリアデザインノート」に記入することで「成長する自分」を確認しているか

本プログラムでは、学生が折に触れて学生生活の様々な経験を「キャリアデザインノート」に記入し、

「成長する自分」を確認することになっている。従って、学生の「キャリアデザインノート」の記入内容を分析した。分析結果については別紙資料に掲載。

(4) 第三者は本プログラムをどのようにとらえているか

本プログラムに対する第三者の意見を求めるために、全国保育士養成協議会第49回研究会(2010(平成22)年9月17日)で、「短期大学の保育者志望の学生に相応しいキャリア教育とは・・・自信を持って就職活動をするための総合的支援」というテーマでポスター発表を行った。1時間のポスター発表時間に6名の短期大学及び専門学校の先生方に個別に説明し、活発に意見交換をすることができ、本プログラムの有用性について確認することができた。

### ②到達目標に達したか。

本プログラムの達成目標を数値として明確に示すものとして、保育科学生の就職内定状況を挙げるができる。プログラムの対象である2010(平成22)年度2年生と前年度卒業生(2009(平成21)年度2年生)との就職内定状況を、就職シーズンの始まる10月から翌年の3月までの月別に比較したものが次の表である。

就職内定状況	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末
平成22年度2年生	4.0%	26.2%	58.4%	74.5%	94.1%	98.4%
平成21年度2年生	2.0%	19.0%	47.3%	56.3%	82.0%	97.1%

出典：キャリア支援室資料

#### (1) 98.4%の就職率を達成

本プログラムの到達目標である就職率90%以上を達成することができた。なお、2009(平成21)年度2年生208名中、「就職未定・しない」という学生が10名であるのに対し、2010(平成22)年度2年生203名中5名であり、未就職者も半減している。

#### (2) 早期の就職内定者の増加

本プログラムの目的は、保育科学生が「充実した学生生活を送り、就職の準備を整え、自信を持って就職活動に臨む」ことにある。それを具体的に示すものは、「就職内定状況」の過程である。就職活動が始まる10月から翌年の2月にいたるまで、本プログラムの対象である2010(平成22)年度2年生は2009(平成21)年度2年生に比べて、常に内定状況が優位である。特に就職シーズンのピークを向かえる1月末の時点では18.2ポイントの差をつけている。2010(平成22)年度2年生は、自信を持って意欲的に就職活動に臨んだと言える。

#### (3) 公立保育士採用試験合格者の増加

公立保育士採用試験や公立幼稚園教諭採用試験に

合格するためには、主体的、計画的、意欲的な学習が求められる。本プログラムの対象である 2010(平成 22)年度 2 年生は公立保育士採用試験に 15 名が合格し、前年度の 2 年生と比較して 3 倍増という結果である。さらに、最難関とされる公立幼稚園教諭採用試験に 1 名合格している。

	公立保育士採用試験合格者	公立幼稚園教諭採用試験合格者
平成 22 年度 2 年生	15 名	1 名
平成 21 年度 2 年生	5 名	0 名

③具体的な成果は何か。

(1) 学生が「成長する自分」を確認し、人前で語ることができるようになった

「4 領域プログラム」の「コミュニケーションスキルの形成、常識の習得」の中に「自己 PR」がある。これは、前期・後期最後の講座で、担当教員の前で、学生がこれまでの学生生活の成果を報告するものである。学生は、「キャリアデザインノート」に記入した内容を基に成果を報告するが、学生生活の事実に基づいて自分を語ることになる。担当教員が学生の語りに共感したり、補足したりすることにより、学生はさらに「成長する自分」を確認することができる。なお、2 年生の 7 月にはキャリア支援室職員との個人面談があるが、その際にも「キャリアデザインノート」を持参して「成長した自分」を語る。このような経験が就職試験での面接にも効果が表れたと思われる。

(2) 主体的に、自信を持って就職活動ができるようになった

保育科 2 年生は 10 月中旬から下旬に 2 週間の幼稚園実習があり、11 月初旬には聖徳祭(大学祭)がある。そのために、例年は 10 月から始まる就職活動に対して消極的になりがちであった。就職活動が遅れがちになり、十分な準備ができないまま、担任やキャリア支援室職員から指示されて就職活動を始めるというのがこれまでの傾向であった。しかしながら、本プログラムを経験した学生は、十分な準備の基に、就職シーズンのスタートから就職活動に主体的・積極的に取り組み、1 月末における就職内定率は前年度よりも 18.2 ポイントも高い結果を得ることができた。

(3) 保育科教員とキャリア支援室職員の連携に基づく就職支援体制が確立した

本プログラムのうち、「4 領域プログラム」は主に 1 年次の「基礎ゼミ」の授業時に保育科専任教員が担当する。「4 領域プログラム」により、学生は就職活動の準備をする。さらに、「4 領域プログラ

ム」の成果に基づき、キャリア支援室職員が就職ガイダンスを行う。就職ガイダンスの際は、保育科教員も同席する。また、「キャリアデザインノート」への記入に基づいて学生は 1 年次に 2 回、教員の前で学生生活の成果を報告する。そして 2 年次には、キャリア支援室職員の前で同様に報告する。10 月初旬には、保育科教員とキャリア支援室職員の協働による「就職活動出陣式(本プログラムの総括として 2010(平成 22)年度より実施)」があり、本格的に就職活動が始まる。

以上のように、学生の就職支援活動を保育科教員とキャリア支援室職員が協力・連携し合う体制が本プログラムを通じて確立した。

(4) “Career Design Note”と“Yes,”で学生の就職支援を充実させることができた

キャリア支援室では、毎年 7 月に保育科 2 年生に就職活動のガイドブック“Yes,”を配布している。学生は“Yes,”を参考にして就職活動を行う。ところが、多くの学生はこれまでは十分に準備ができないうまま、不安な気持ちで就職活動を行ってきた。しかしながら、本プログラムの対象の学生は“Career Design Note”の「キャリアデザインノート」に記入することで「成長する自分」を確認し、「4 領域プログラム」により就職活動の準備を整えることができたと言える。その結果、“Yes,”を基に充実した就職活動ができるようになった。すなわち“Career Design Note”は「就職の準備」として、“Yes,”は「就職活動のガイドブック」として、学生の就職支援の両輪として重要な役割を果たしている。

## 今後の計画

1. 当該プログラムの成果をどのように活用していくか。

第 1 に、様々な場面で教員が一人ひとりの学生の成果を積極的に評価するように努めることである。本プログラムでは、学生が「キャリアデザインノート」により「成長する自分」を確認するが、教員が学生の成長を共感したり、学生が気付いていない「優れた部分」を指摘するなど、教員のサポートがさらに効果を上げる。この成果を授業や実習など、様々な場面で活用していく予定である。

ちなみに、2012(平成 24)年度から始まる保育所実習では、実習終了後に、実習の評価票を学生に開示し、実習担当教員が学生と評価票を基に話し合い

を行い、学生の優れている部分を積極的に評価する計画を立てている。

第2に、保育科教員による就職支援をさらに充実させ、キャリア支援室職員による就職支援に繋げて行くことである。例えば、2011(平成23)年度の「基礎ゼミⅡ」では、「履歴書を書く」というテーマを取り上げた。これは単に「履歴書の書き方」を指導するのではなく、履歴書を書くことにより「今の自分」を見つめ、これからの学生生活を有意義に送ることが狙いである。そのことが2年生になり、就職活動をする際に、自分をきちんとPRできる「履歴書」を書くことができるようになるからである。

## 2. 今後の計画

「学生生活」を客観的に自己評価するための「自己チェックリスト」の作成と試行

本プログラムの取組期間は2009(平成21)年度～2010(平成22)年度であるが、平成23年度もPDCAサイクルに基づき、改善されたプログラムで継続して実施した。

学生の就職支援をさらに充実させるために、平成24年度は学生が自らの「学生生活」を客観的に自己評価するための「自己チェックリスト」を作成する。学生は学生生活での様々な経験(学び)を「キャリアデザインノート」に記入し、「成長する自分」を確認し自己評価をする。しかしながら、自己評価が主観的な評価に流れる傾向もある。そこで、就職シーズンを迎える際には、もう一度、自らの「学生

生活」を総点検するための評価が必要である。それによって、学生は「成長する自分」を再確認し、不足している部分を補うことができる。

## 就職未内定者への支援策

### 1. 内定(内々定)のピークを過ぎても内定(内々定)を得られない者への支援策

保育者志望の学生にも企業志望の学生にも、キャリア支援室職員が個別に対応しながら、就職支援を継続している。必要に応じて担任の支援も受ける。内定のピークを過ぎても求人はあるので、学生が最後まで就職活動への意欲を失わないように支援をしている。学生が特に就職試験で苦手なもの(例えば面接、作文等)があれば、丁寧に指導をしている。

### 2. 未内定のまま卒業した者への支援策

未内定のまま卒業する学生については、キャリア支援室職員が学生に4月以降も就職活動を継続するかどうか確認している。学生が就職活動を継続することを確認したら、キャリア支援室職員は学生と密接に連絡を取り合って就職支援を継続している。実際に、4月以降に保育所・幼稚園や企業から「既卒者の求人票」がキャリア支援室に届けられており、就職が決まった学生もいる。

## 資 料

本プログラムの目的は、学生が2年間の充実した学生生活を送り、その総合的な学習成果を就職活動へ発展させることを支援するものである。目的がどのように、どれだけ達成されたかを評価するためには、多面的な観点からの評価が必要である。そこで、本プログラムについては、以下の3つの観点から評価を行った。

1. 学生のプログラムへの評価・・・学生は「4領域プログラム」を必要と感じているか
2. 教員のプログラムへの評価・・・教員はプログラムを実践してどのような感想を持ち、評価しているか
3. 「キャリアデザインノート」の記入内容・・・学生は「キャリアデザインノート」に記入すること

で「成長する自分」を確認しているか

### 1. 学生のプログラムへの評価

後期「基礎ゼミⅡ」授業終了後に、学生に「キャリア形成4領域プログラム」及び「キャリアデザインノート」についてのアンケートを実施した。(※前期の「基礎ゼミⅠ」では、まだキャリアデザインノートを作成していないため、「基礎ゼミⅠ」に関するアンケートは実施していない。)

アンケート項目は主に「有用性」に関するもので、「キャリア形成4領域プログラム」や「キャリアデザインノート」が学生にとって「役に立ったか」を尋ねている。アンケート項目は以下のとおりである。

「キャリア形成4領域プログラム」及び「キャリアデザイン・ノート」についてのアンケートのお願い

(1) 次の質問に対して、「非常にそう思う」場合には5、「ある程度そう思う」場合は4、「どちらとも言えない」場合は3、「あまりそう思わない」場合は2、「そう思わない」場合は1を丸で囲んでください。

1. 「原稿用紙の書き方」は役に立った。(第2領域)
2. 「敬語の使い方」は役に立った。(第2領域)
3. 担当の先生の前で、「1年間を振り返って」のスピーチをして、自分を語る自信がついた。(第2領域)
4. 「電話のかけ方」は役に立った。(第2領域)
5. 「実習体験を語る」のスピーチをして、自分を語る自信がついた。(第2領域)
6. 「手紙の書き方」は役に立った。(第2領域)
7. キャリアデザインノートに記入することで、自分を振り返ることができた。(キャリアデザインノートへの評価)
8. キャリアデザインノートは2年生になってからも役に立つと思う。(キャリアデザインノートへの評価)
9. キャリア支援室の「就職ガイダンス」は役に立った。(第4領域)
10. (公立幼稚園の先生の講義を聞いた人のみ答えてください)

講義を聞いて良かった。(第3領域)

(2) 「基礎ゼミⅡ(キャリア形成4領域プログラム)」の感想を書いてください。(どのようなことでも、結構です)(第1～4領域)

(3) 「キャリアデザインノート」の感想を書いてください。(どのようなことでも、結構です)(キャリアデザインノートへの評価)

(1) について

学生の回答は以下の通りである。なお、評価5「非常にそう思う」と評価4「ある程度そう思う」を合わせた人数及び比率(%)を各項目の成果とする。

Q1. 「『原稿用紙の書き方』は役に立った。」(228名)

評価	5	4	3	2	1
人数	65	110	48	4	1
割合(%)	28.5	48.2	21.1	1.8	0.4

評価5と4を合わせると76.7%となり、原稿用紙の書き方は学生にとって役に立ったと言える。

Q2. 「『敬語の使い方』は役に立った。」(225名)

評価	5	4	3	2	1
人数	98	104	22	1	0
割合(%)	43.6	46.2	9.8	0.4	0.0

評価5と4を合わせると89.8%となり、敬語の使い方は学生にとって大変役に立ったと言える。

Q3. 「担当の先生の前で『1年間を振り返って』のスピーチをして、自分を語る自信が付いた」(222名)

評価	5	4	3	2	1
人数	25	70	101	23	3
割合(%)	11.3	31.5	45.5	10.4	1.3

自分を語る自信が付いた学生は42.8%という結果である。担当教員の前でのスピーチは初めての試みであるため、この数値が単純に低いとは判断できない。ただし、評価3は45.5%のため、半数近くの学生が効果について明確に語る事ができないので、授業方法の改善が見込まれる。

Q4. 「『電話のかけ方』は役に立った」(227名)

評価	5	4	3	2	1
人数	72	92	54	8	1
割合(%)	31.7	40.5	23.8	3.5	0.5

評価5と4を合わせると72.2%となり、電話のかけ方は学生にとって役に立ったと言える。

Q5. 「『実習体験を語る』のスピーチをして、自分を語る自信が付いた」(235名)

評価	5	4	3	2	1
人数	30	102	77	23	3
割合(%)	12.8	43.4	32.8	9.8	1.2

自分を語る自信が付いた学生は56.2%という結果である。保育科生として最初の附属幼稚園実習を体験し、「自分の実習体験を具体的に語る」ため、Q3のスピーチよりも結果が良かったようである。

Q6. 「『手紙の書き方』は役に立った」(228名)

評価	5	4	3	2	1
人数	63	100	53	10	2
割合(%)	27.6	43.9	23.2	4.4	0.9

評価5と4を合わせると71.5%となり、手紙の書き方は学生にとって役に立ったと言える。

Q7. 「キャリアデザインノートに記入することで、自分を振り返ることができた」(227名)

評価	5	4	3	2	1
人数	40	82	78	24	3
割合(%)	17.6	36.1	34.4	10.6	1.3

53.7%の学生がキャリアデザインノートの記入により、自分を振り返ることができたという結果である。評価3の学生が34.4%いることで、キャリアデザインノートの意義が学生に十分に伝わっていなかったようである。

Q8. 「キャリアデザインノートは2年生になってからも役に立つと思う」(226名)

評価	5	4	3	2	1
人数	42	87	78	15	4
割合(%)	18.6	38.5	34.5	6.6	1.8

57.1%の学生がキャリアデザインノートは2年生になってからも役に立つと思っている。34.5%の学生は「どちらとも言えない」と答えている。今年度後期の「基礎ゼミⅡ」で初めてキャリアデザインノートを導入・活用したので、1年間を通じてキャリアデザインノートを十分に活用できなかったことが影響しているのではないかとと思われる。

Q9. 「キャリア支援室の『就職ガイダンス』は役に立った」(218名)

評価	5	4	3	2	1
人数	90	86	34	5	3
割合(%)	41.3	39.4	15.6	2.3	1.4

評価5と4を合わせると80.7%となり、キャリア支援室の就職ガイダンスは学生にとって大変役に立ったと言える。今年度より、初めて就職ガイダンスを「基礎ゼミⅡ」の授業の中で少人数を対象に行うことになったが、大いに成果をあげることができたと思う。

Q10. 「(公立幼稚園の先生の講義を聞いた学生を対象として) 講義を聞いて良かった。」(61名)

評価	5	4	3	2	1
人数	28	25	8	0	0
割合(%)	45.9	41.0	13.1	0.0	0.0

評価5と4を合わせると86.9%となり、公立幼稚園の先生の講義は学生に大変好評であったと言える。本学を卒業し公立幼稚園教諭をしている方に「保育者の仕事と人生」と言うテーマで講義をお願いした。自由参加であるが、61名の学生が熱心に講義を聞き、学生のキャリアデザインに大いに影響を与えたと言える。

■2009年度1年生と2010年度1年生との比較

本取組の対象は、2009年4月に入学した保育科生(2009年度1年生とする)である。2009年度1年生が初めてキャリアデザインノートを後期より使

用して「4領域プログラム」を受講したことになる。そして、2010年4月に入学した保育科生（2010年度1年生とする）はキャリアデザインノートを前期より使用している。そこで、『「キャリア4領域プログラム」及びキャリアデザインノートについてのアンケート』を2010年度1年生にも実施し、2009年度1年生との比較をした。その結果を以下に示す。

アンケート番号	2010年度1年生		2009年度1年生	
	評価4、5の合計 (%)		評価4、5の合計 (%)	
Q1. 原稿用紙の・・・	83.9	9	76.8	8
Q2. 敬語の使い方・・・	90.7	7	89.8	8
Q3. 担任の前で・・・	56.2	2	42.8	8
Q4. 電話のかけ方・・・	86.2	2	72.2	2
Q5. 実習体験を・・・	64.9	6	56.2	2
Q6. 手紙の書き方・・・	83.6	9	71.5	5
Q7. キャリア・・・	66.3	3	53.7	7
Q8. キャリア・・・	70.1	3	57.1	1
Q9. キャリア支援室・・・	90.3	3	80.7	7
Q10. 公立幼稚園・・・	85.4	4	86.9	9

以上より、明らかなことは、Q1～9までのアンケート項目については、2010年度1年生の方が満足度が高いということである。Q10については2009年度1年生が1.5ポイントのみ高いが、同程度の満足度と言える。

2010年度1年生は前期の「4領域プログラム」から「キャリアデザインノート」を使用していること、2010年度「4領域プログラム」の指導方法・内容等を改善したこと、指導する教員も去年度の経験から指導に習熟した点が主な要因であると思われる。

(2) 「『基礎ゼミⅡ（キャリア形成4領域プログラム）』の感想を書いてください。」

「4領域プログラム」の感想について、肯定的な感想と否定的な感想に分けて以下に示す。集計はしていないが、肯定的な感想が極めて多かった。少数の否定的な感想については、「4領域プログラム」の内容・指導方法の改善で解決できる。

**■肯定的な感想**

- ・ 沢山勉強になりました。
- ・ めんどくさいけど、やっていると得。
- ・ 手紙の書き方がとても役に立ちました。
- ・ 基礎的な事（常識）を多く学べたのでよかった。
- ・ 就職ガイダンスがとても勉強になりました。
- ・ 就職ガイダンスを受けて就職について考えるきっかけになった。
- ・ 実習や電話のかけ方、原稿用紙の書き方など役にたった。
- ・ 敬語の使い方は、実習で役に立ちました。
- ・ 敬語の使い方など目上の人に対することがわかってよかった。
- ・ 社会人になる上でのマナーが身につきました。
- ・ 生活のマナーに対していろいろ学べたので、よかった。
- ・ 人前で発表をして、少し人前にでることが平気になりました。
- ・ 前での発表することは、はずかしく、緊張するが、どうすれば変わるかが身についたと思います。
- ・ 何かを書くという機会が増え、書くことに慣れてよかったと思います。
- ・ 書くという作業がとても多く、ものを書く練習になった。
- ・ 書くという作業が多くなるのはいい。
- ・ 将来、為になる様なことは知りたかった。
- ・ これからの自分に役立つことをたくさん知れて良かった。
- ・ 就職してから役に立つ内容だと思いました。
- ・ クラスの半数でやっていることがいいと思う。
- ・ これから続けていくべきです。

**■否定的な感想**

- ・ 書くことがとても多かった。
- ・ 内容や質問が難しく、課題も多く大変だった。授業が憂うつだった。
- ・ 1年のうちからやらなくていいと思う。
- ・ せめて2週間に1回にしてほしい。
- ・ 毎回、授業時間が足りず、やる内容が終わらなかった。

(3) 「『キャリアデザインノート』の感想を書いてください。」

「キャリアデザインノート」について、肯定的な感想と否定的な感想に分けて以下に示す。集計はしていないが、肯定的な感想が極めて多かった。少数の否定的な感想については、「キャリアデザインノート」の内容の改訂やその有用性等について学生にきちんと伝えていくことで解決できる。

**■肯定的な感想**

- ・ 自分を振り返ることができ、よかったと思います。
- ・ 書くことが多く面倒くさいとも思ったが、自分を振り返ることのできる良い機会だと思った。
- ・ 1年間を振り返った感想などで、自分自身をしっかりと振り返ることができたので良かった。
- ・ その都度ノートに書き込むので、振り返りの時に便利。
- ・ 自分のセールスポイントなど考えることができてよかった。
- ・ 人前で話せるようになった。
- ・ 自分の体験を振り返ることができるといいと思います。
- ・ 一冊で本当に役に立つことばかりで、良いと思う。
- ・ これからの就職などに役にたつと思う。
- ・ これから役に立つ授業でした。
- ・ 書きやすく、わかりやすかった。
- ・ ノートに書いてファイルしてあることで、見たいときに見れるので、とても便利だと思いました。
- ・ 参考になるのが沢山あって、良かったです。
- ・ よくまとまっていて、わかりやすかったです。電話のかけ方は、実際に使ったので役に立ちました。
- ・ 説明がわかりやすくして使いやすいです。
- ・ 敬語や手紙の書き方など将来役に立つと思った。
- ・ 常識を学ぶのに適していると思う。
- ・ 手紙の書き方や敬語などについて詳しく書かれているので、現場に行っても役に立つと思った。
- ・ キャリアデザイン・ノートを使うようになってから、礼儀や社会人としてのマナーがわかるようになってきた。
- ・ これから就職活動においても役立つノートだと思ふ。
- ・ 今後、大人になっても役に立つノートだと思ふ。
- ・ 後期から配布されたので、前期からあればよかったに思ふ。

**■否定的な感想**

- ・ かなりめんどうくさい。
- ・ 少し書くことが多かった。
- ・ 正直、書くことが多く大変だった。
- ・ なくてもいいと思う。
- ・ あまり必要ないと思う。
- ・ 重すぎて、かさばる。
- ・ あまり使わなかったと思う。
- ・ 何のために書くのかわからない項目がけっこうあるように思ふ。

## 2 教員のプログラムへの評価

「4領域プログラム」を担当するのは、保育科専任教員である。「基礎ゼミⅡ（2009年度後期）」「基礎ゼミⅠ（2010年度前期）」終了後、担当教員に以下の項目でアンケートを実施した。全て自由記述で回答するものである。

**「基礎ゼミⅠ・Ⅱ（4領域プログラム）」アンケート**

- 「基礎ゼミⅠ・Ⅱ（4領域プログラム）」を終えての感想・反省等を書いて下さい。
- 「基礎ゼミⅠ・Ⅱ（4領域プログラム）」の評価についての感想・改良点等を書いて下さい。
- 「キャリアデザインノート」について、ご意見を書いて下さい。
- その他、何かお気づきの点がございましたら、書いて下さい。

主に「基礎ゼミ」についてのアンケートであるため、担当教員自身の指導の反省点や「基礎ゼミ」の内容の改善点等も多く書かれていた。ここでは、本取組と直接に関連する意見・感想を以下に示す。

アンケートの回答から明らかなように、担当教員は、「4領域プログラム」及び「キャリアデザインノート」の成果を確認できたと言える。

### ■教員の意見・感想

- ・当初は学生たちの能力に疑問を感じ、どうなるのかと不安を覚えました。15回を終了し、大学生活全般を通して、学生たちの成長を感じる事ができました。
- ・新聞を扱ったゼミで、読んだ記事を要約し、自分で考え、考えたことを発表できるようになったことで、学生の成長を感じる事ができました。
- ・学習した内容を振り返ったり、学生同士で話題を共有したりできるので大変有です。
- ・保育者としての自覚が出てきたと思うが、学生の目的意識の違い（ただ資格を取得することを目指す学生と専門性豊かな保育者を目指す学生）が理解力に正比例していると思われます。
- ・「就職が近い」と学生に意識させる効果があったと思います。
- ・基礎ゼミⅡはさらに実習・就職に向けての具体的内容になり、指導の手応えが感じられた。
- ・就職ガイダンスの後、学生は就職を強く意識するようになり、積極性が増しました。
- ・第12回「自己PRをする」は大変効果がありました。殆どの学生が与えられた時間の中で、自分の言葉で説明できるようになっており、感心しました。
- ・現代の学生の常識力を考えると、重要な科目です。
- ・基礎ゼミは、様々な内容がバランスよく盛り込まれていると感じます。
- ・ある段階で「保育とは」「いのちとは」など、就職試験で問われる内容のものを少し入れてくださると良いと思います。
- ・キャリアデザイン・ノートに記入することにより、「保育者になる（ためには）」という意識付けがされたと思います。
- ・卒業生2名（それぞれ違う学年）から、「基礎ゼミ」のノートが社会人になった今、役に立っているとの報告がありました。彼女たちの時代にはキャリアノートはなかったですが、今のように保存版キャリアノートは有用と思います。
- ・全体としては、学生自身が学習を進めて行くことができる内容が含まれており、取り組みやすい教材だと思います。
- ・習得する内容について要点がまとめられており、学生が記述するスペースも分かりやすくなっている使いやすい。

- ・目的は分かるのだが、あまりに自由度がなさすぎて使いづらかった。

### 3. 「キャリアデザインノート」の記入内容

「1 学生の評価」のアンケート項目「7. キャリアデザインノートに記入することで、自分を振り返ることができた。」については、53.7%の学生が「自分を振り返る」ことができ、34.4%の学生は「どちらとも言えない」、11.9%の学生は否定的な回答をしている。キャリアデザインノートによる「振り返り」の効果は50%程度ということになる。

しかしながら、学生のキャリアデザインノートの記入内容を読むと、ノートの必要性・重要性を確認することができる。

保育科1年生は「キャリアデザインノート」の15項目のうち、「①1年前期を振り返って」「②1年後期を振り返って」「④クラス委員、学友会役員、その他の係になって」「⑤クラブ活動を経験して」「⑥附属幼稚園実習を終えて」「⑬ボランティアを経験して」「⑭アルバイトを経験して」の7項目について記入している。①②④⑥⑬の記入例を以下に紹介したい。以下の記入例は、決して模範的な内容ではないし、文章表現の稚拙さも否めないが、学生が自分の意見を卒直に語っており、自分をきちんと見つめていると言える。

①「1年前期を振り返って・・・高校時代までと大学時代との勉強の違い、今一番興味のある分野など具体的に記入してください。」

大学に入学し、高校時代までとの勉強の違いはやはり、いかに専門分野に深く取り組んでいるということだ。高校時代では、国語や数学など、一般的な分野を勉強してきた。しかし、大学に入り、保育の道に進む中で、専門的な分野を学ぶ面が大半になり、将来の夢に向けて自ら勉強する、ということが増えた。それが高校時代までとの違いである。今一番興味のある分野は、保育原理である。幼児と関わる上で、幼児にどう接したらよいのか、理想の保育者の条件など、今自分が知りたいことを学び、勉強していきたいと思うからだ。そしてそれらを勉強し、これから実習等、幼児と接する様々な面で役立てていこうと思う。



短大は、高校よりも実技が多く、大変だと感じています。

ですが、筆記の教科は似た分野の勉強なので、どの授業を受けても、他の教科と重なる部分があるので頭の中に入りやすいです。

一番興味のある分野は心理学です。子どもの心理を勉強し、考えていくことに興味があったので、短大で学べてとても楽しいです。

前期は、苦手な教科を集中的にやろうとしていなかったのですが、後期はしっかり取り組んでいきたいです。高校の時よりも、その教科の分野を深く学んでいけるので、自分にとってもいい場所だと思います。積極的に学んでいけるように、常に意欲を持って取り組んでいきたいです。

2名の学生の「1年前期の振り返り」である。それぞれの学生が、大学での勉学の厳しさと面白さについて語っている。教科への興味の理由も、納得できるものである。1年前期の振り返りとともに、今後への意気込みも語っている。

②「1年後期を振り返って・・・1年が過ぎ、大学生活にもすっかりなれました。実習も経験し、大学での学びも一段と深まってきました。1年間を通じての学習の成果を記入してください。」

前期と違い、大学生活にも慣れてきて、それと同時に寮生活にも慣れ、気持ちに余裕を持てるようになったかなと思いました。実習もあり、実際に保育の現場で子どもたちにふれあい、普通の大学生活の中では絶対に学べないことばかりで、ほんとうに勉強になりました。子どもをただ保育するだけでなく、子どもたちが帰ってからの先生たちの忙しさなど、裏の仕事、行事に向けての大変さなどを知り、今まで知らなかったことを1年間で知ることができました。

学習面では、好きな教科だとすっごくすっごくやる気が出るが、苦手な教科だと一歩引きぎみな気がするのですが、すべての教科を積極的に学ぶことは大事だと思った。その中でも自分の興味ある分野などより深めていきたいと思った。2年生になっても、パワー全開でいきます。

前期より、いろいろな教科に対して理解が深まったと思います。後期の印象は表現と創作です。創作

では班長になり、みんなをまとめることの難しさを知りました。人の上に立つことは本当に大変だし、泣き出したくなったりやめたくもなります。けれど、引き受けた以上、しっかり最後までやりとげたいと思います。表現は、意見を出し合わなければならなくて、一生懸命考えても先生からはOKが出なかったり、みんなの時間が合わなすぎてもめたりと、いろいろありすぎて本当にごちゃごちゃでした。でも、一回一回練習を重ねていくうち、絆が深まるのが分かってだんだん落ち着いてきました。これからも、いろいろ大変だけど、みんなががんばっていききたいです。

- ①今まで以上に、子どもについての興味・関心が深まった。
- ②公務員の就職状況を詳しく知り、説明会に意欲的に参加することができた。
- ③苦手科目（音楽の歌）を逃げずに取り組むことができた。
- ④寮生活やクラスなどで、人間関係を円滑に過ごすことができた。
- ⑤学生スタッフの仕事を通して、人に説明できる能力が今以上に身についた。
- ⑥学業の他にクラブ活動に入り、積極的に取り組めた。
- ⑦実習を通して、先を読んで行動できるようになった。
- ⑧親に頼っていたことも、自己解決したり自己管理をしたりできるようになった。
- ⑨聖徳祭実行委員をやって、先に立って行動していくことを経験した。
- ⑩2年生に向けて、具体的に何を頑張ればいいのか見通しがついた。

3名の1年後期の振り返りである。最初の学生は、初めての附属幼稚園実習を最も印象に残る体験として捉えている。多くの学生が、実習体験が自らの成長に大変役立ったと述べている。2番目の学生は、保育表現研究発表会の班長となり、その責任の重さ、仕事の大変さについて述べているが、苦労が報われた喜びを実感している。最後の学生は、1年間の振り返りを箇条書きで10項目に整理して示している。どれも本人にとって貴重な経験であり、得るものが多かったようである。

④「クラス委員、学友会、その他の係になって・・・クラス委員や学友会役員、さらに行事等の係としての経験を記入してください。どのような仕事をした



か、どのくらいがんばったか、どのような成果をあげたか、自分に身についたことは何か、具体的に書いてください。』

志賀高原で班長になりました。班長になることは、高校時代でも何回かあったんですが、大学になってもやる内容はわりと同じだったので、やりやすかったです。ただ聖徳の内容はとても濃くて時間きっちり動いていかなければいけないという点が大変でした。大人になって就職すると、私たちは子どもたちを引っ張っていかなければいけない立場になるので、予行練習になったと思います。2年生になってからは班長という仕事はまた出会うことはあると思うので、積極的にやっていきたいです。また他にも係をやるようなことがあれば、進んでやってみたいと思います。

この学生は、志賀高原研修旅行での班長体験の成果を将来の保育者のリーダーシップへと結びつけている。今後のクラス内の様々な係活動への意欲が大いに感じられる。

⑥「附属幼稚園実習を終えて・・・実習は強力な就職対策です。附属幼稚園実習は最初の実習です。今回の実習であげた成果を10項目記入してください。』

1. 幼児に対する言葉掛けができるようになった
2. 報告・連絡を迅速に行うことの大切さが分かった
3. 幼児の前で絵本を読んだり、ピアノを弾く度胸がついた
4. 幼児の立場に立って物事を考えられるようになった
5. 目上の人に対する言葉づかいが身についた
6. 実習録の書き方を正しく理解することができた
7. 先を見すえた行動ができるようになった
8. 自分が何をすべきか、考えながら行動することができるようになった
9. 何に対しても前向きで取り組むことの大切さが分かった
10. 幼児がもっと大好きになった

この学生は自分の実習体験を十分に振り返り、実習成果を的確に文章表現している。

⑬「ボランティアを経験して・・・ボランティアを始めた動機、具体的な活動内容、何を学んだか、今後どのように活動していくか、記入してください。』

私は高校の時から現在にかけてボランティア活動をしています。内容は子どもを養成していくボランティアで、対象は小学校の子どもたち、養護学校の児童などの子どもたちで、私たちボランティアの会の方がリーダーとなり、キャンプやクリスマス会など、行事を通して、子どもたちとのふれあいを大切にしているボランティアです。私はその行事に参加したとき、子どもたちの中心となって世話をしているお姉さんにあこがれ、参加しました。このボランティアは保育士を目指している自分にとって、子どもとふれあうことができる大切な機会だと思うので、子どもたちのふれ合いの中で、成長過程や発達、心情などをつかんで理解していきたいです。

ボランティアを経験した学生の振り返りである。この学生は「保育者を目指す自分自身」にとってボランティア体験の意義を確認している。

## 評 価 結 果

### 評 定 : S

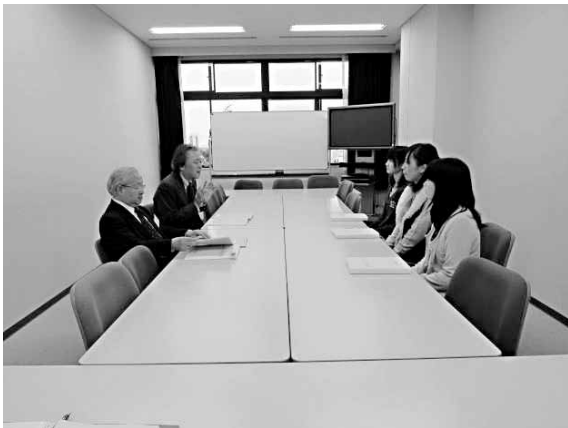
#### 評定理由（総論）

本プログラムは、短期大学部保育科の学生が充実した学生生活を送り、その総合的な学習成果＝学士力を就職活動へ発展させることを支援することを目的として、「キャリアデザインノート」導入と「キャリア形成4領域プログラム」開設を実施することで、就職率（90%以上）と早期の就職内定率を上昇させることを到達目標とするものである。学科の特

性と本学の実情に即した、きわめて具体的かつ実現可能な目標を設定し、プログラムを着実に実施する体制を整備している点に特色があり、優れている。また自己点検評価の観点の設定も適切であり、客観的なデータ収集を行った上で評価を行っており高く評価できる。最終的に目標とした就職率と早期就職内定率のいずれにおいても着実に到達した様子がうかがえ、本プログラムの高い有効性を示しているものと判断できる。

## 実 地 視 察 報 告

視察日：2012(平成24)年10月17日（水）



### 総 評

本取組は、短期大学部保育科の学生が、明確なキャリアデザインと自信を持って就職活動に臨めるようにすることを企図したものであり、具体的には「キャリアデザインノート」の配布と「キャリア形成4領域プログラム」の実施から構成されている。2年間という限られた学修生活の中で「学生生活の全てが就職に繋がる」という発想の下、入学当初より「キャリアデザインノート」を配布し記入させることで、学生に折々の「自分」を見つめ直し、アイデアを明晰化する契機を提供している。

一方、この「キャリアデザインノート」は、「キャリア形成4領域プログラム」の1年次（「基礎ゼミⅠ」「基礎ゼミⅡ」）プログラムのテキストも兼ねており、保育者として就職する際のコミュニケーションスキルや常識も身に付けられるような設計がなされている。

特に、殆どの学生が保育所・幼稚園に就職をしていく本学科において、就労条件の良い（競争率の高い）保育所・幼稚園に就職をするためには、早期に自信を持って就職活動を開始する必要があるとの前提で、上記のような取組を行った結果、早期の就職内定率向上という目標に着実に到達したことが認められる。総じて、目的とそれに到達する計画に齟齬がなく、実際に取組を担う保育科教員とキャリア支援室職員が一体となって、真摯にプログラムの運営に尽力したこともあり、極めて大きな成果を上げた取組と認められる。

さらに、取組に対する自己点検評価についても、4つの適切な観点を設定し、それらを評価するのに必要なデータを学生、教員のみならず、学外からも収集するように努めており、大変評価できる。また、本推進プログラムの助成終了後も、この取組をベースに教育内容の改善を実施しており、さらに短期大学部の他学科並びに併設の大学にも取組を拡張して

いく意向を持っており、より汎用性の高いプログラムへの発展に大いに期待が持てるものである。

### 個別事項

実地視察において、本取組についてヒアリングを行った結果、以下の点が特筆できる。

(1) 「キャリアデザインノート」が本学保育科教員によって執筆編集されたオリジナルであるために、本学保育科の教育方針、学生の学力・気質・就職の志向等に合致した、極めて使い勝手の良い内容となっていること。これは、外部業者の作成する汎用のガイドブックが、装丁は美しいものの個別の大学の実状に合わず、結果として死蔵されることが多い中、本取組は極めて示唆的である。

(2) 「キャリア形成4領域プログラム」を正課内の教育に位置付け、保育科全教員にコミットメントを求めて、少人数によるきめ細かい教育を実施していること。また学生の「キャリアデザインノート」の記述を基に教員が面談を行うなど、実効性を高めるサポート体制の構築は高く評価できる。

(3) 全教員で担当する「基礎ゼミI」「基礎ゼミII」の内容を平準化するために教員用マニュアルを作成したり、科別会で取組の目的を共有化したりすることで、保育科教員が集団として学生に向き合う体制を整えたこと。従来の大学教員の気質からすれば、学部・学科教育を組織化することはなかなか難しいとされるが、短期大学部保育科という特殊性を考慮に入れたとしても、教員の凝集性を高めた本取組は、一つのモデルケースとして注目に値する。

#### (4) キャリア支援室の密接な連携

上記のような凝集性の高い教員集団が形成され、新しいプログラムが策定されたことによって、キャリア支援室職員と密接な連携をとって学生指導にあたることができるようになったこと。従来、連携なく動きがちであった教員による学生教育と、大学職員によるキャリア支援が、「キャリア形成4領域プログラム」を中心に収斂して行き、一体的なサポートが可能になった点は評価できる。